

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000039		
法人名	株式会社 ハンループ		
事業所名	グループホーム はるる		
所在地	訓子府町字穂波67-33		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍により外出や慰問が出来ない状態が続いていますが季節に応じて施設内を装飾したり、行事を計画し利用者様に楽しんで頂けるよう努めています

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=0195000039-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年11月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年に開設されましたグループホームはるるは、本年令和3年4月に代表者変更があり新たな布陣で再スタートしています。代表者の変更であり、基本的な理念や運営方針の変更はなく、パンフレットや重要事項説明書への掲載やリビングも目につきやすい箇所へ掲示して職員の確認、気付きや家族の理解に繋がっています。母体の法人は高齢者介護の他、障がい者の支援事業を行っており町とは認知症カフェへの参加や研修会への参加で協力関係を築いており、訓子府町の福祉事業を担う事業所となっています。また、グループホームはるるは、「個人の尊重、尊厳の維持」「笑い」と楽しみのある自立した生活」「自然とのふれあい」「地位との交流」を理念の柱とし利用者第一で、思いやりを持った介護に努めています。毎月のユニット会議ではカンファレスで利用者の状態を全員で共有する他、研修で知識向上に努めています。新型コロナウイルス感染症の影響を出来るだけ感じさせないように取り組んでいますが、これまでであった幼稚園児との交流や地域町内会婦人部との交流は中断を余儀なくされ再開が待たれています。現在利用者はグループホーム内でビデオを觀賞したり、貼り絵、ぬり絵を楽しみ、食事の下ごしらえや掃除、カーテンの開閉等の仕事の役割を持ち、生きがいに繋がっています。事業所内は穏やかで優しい雰囲気になっており安心な生活ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホームに掲示することで職員へのを図っている	開設時からの理念を各フロアの日につきやすい場所に掲示し意識のもとに置きながら実践に繋げています。また、パンフレットやホームページに掲載し利用者家族等の理解に役立つよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は婦人部等の慰問があり交流を図っていたが現在は行えずにいる	町内会に加入し婦人部の訪問を受けたり、幼稚園との交流や収穫祭への参加交流が行われていましたが、現在はコロナ禍の影響で休止しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の認知症カフェへ参加し講師や相談者として情報提供を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により開催することが出来ない事がありその際には資料の配布を行っている	運営推進会議は2か月ごとに開催していましたが、本年度は書面会議で行っています。第3回目10月の開催は対面で行われ町担当者、社会福祉協議会、町内会役員、5名の利用者家族の出席を得て質問、意見をj得て理解を得ると同時に運営向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の会議に参加することにより連絡を取り合い協力関係を築いている	町担当者から事ある毎に電話やメールがあり情報を得たり、助言や指導を得て協力関係を築いており、事業所の運営に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の会議等により身体拘束について意見交換を行っている	身体拘束廃止に向けては指針を作成し委員会により事業所の現在の状況を確認し各ユニット会議に上程して検討協議を行っています。また、職員研修にも取り組み禁止対象の具体的な行為や不適切な言葉遣いについて学び身体拘束の無い介護に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修に参加することにより虐待への意識を高めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要とされる利用者がいないため学ぶ機会を設けておらず		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や法改定等の際には、契約書類を元に説明を行い、ご家族へご理解・ご協力を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所された際など、意見や要望を聞くように行い要望がある場合には会議等で職員間で共有を図っている	利用者、家族の意見や要望は日常会話の中や、来所面会時の会話の中で把握するように努めています。昨年度は面会制限があり現在も一部継続しています。日常の様子は毎月の通信や誕生日月の家族には別途写真を渡して知らせています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務間の何気ない会話の中でも不安、不満をくみ取れるよう努めている	職員の意見や提案は日常業務の中で把握するよう努めています。また、毎月各ユニットで会議を行っておりカンファレンスのほか内部研修に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に、代表者や管理者で職員の現状について話し合い、必要に応じて環境整備を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験年数に適した内外研修への参加・定期的な勉強会を実施し、個々の向上が図れるような体制を取り入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長・管理者は、役場主催の地域介護力向上会の委員として参加。地域福祉施設関係者と、サービスの質の向上・研修会への参加・人材確保等、会議を通して交流を深めている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネージャー等情報を得ながら、入所されてからの生活を安心して暮らせるように職員間で意見交換している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族と施設の事、ご利用者の事等を話せる機会を設け関係づくりを行っている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行うことで支援を決め、ご家族と相談のもと対応している			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が出来ることは出来るだけ職員と共にやって頂くことを心掛けている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などで話し合いを行ったり、定期的に病状の報告を行ったりし関係を築いている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍により、ご家族、ご友人が面会に来られた際にはマスクの着用、検温、手指消毒をして頂き、玄関にてパーテーションを越しに10分程度の面会にして頂いている状況下においては完全面会禁止にすることもあり	今まで通っていた美容室への訪問はなくなり、訪問美容を受けています。知人の訪問もコロナ禍で制限しており不自由になっていますが、電話での交流があり関係継続が出来るように支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、体操、行事には出来るだけ全員が参加出来るように声掛けを行い、場所についても気の合う利用者同士になるように配慮をいっている			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談出来る体制を配慮している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話等から希望や意向を可能な限り把握しています。困難な場合であってもご家族への聞き取りを行うことで確認を行っている	利用者一人ひとりの思いや暮らし方は、契約時に生活歴を聞いたり日常の会話や入浴中話を聞くことが多くその中で把握し実現できるように取り組んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネジャーの情報を整理し個人ファイルを作り把握をしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活スタイルを重視し、その時の気分に応じた生活が出来るように支援しています。月一のユニット会議、申し送り等で心身の状態の変化を職員が把握できるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング。変化やアクシデントが起きた際には会議等で話し合いを行い介護計画に反映、見直しを行っている	介護計画は変化がない時には概ね1年で見直しを行っています。利用者や家族の意向は常に確認しています。複数の職員が複数の利用者を担当し状態を共有できるようにしています。モニタリングも職員が行いカンファレンスで全員で確認し合い現状に即した計画作成になる様に取り組んでいます。	介護記録や個人ノートが個人の生活記録になっていますが、見直しに繋がるサービス実施状況の様子の記載がさらに充実されることを期待しています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を介護記録や個別ノートで情報を共有し見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の要望、状況に柔軟に対応できるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍により慰問等中止している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族のご協力のもと受診を行ったり、場合によっては職員で受診を行っている	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診は事業所が対応しています。遠方の専門医への受診は家族が行い情報を共有していません。医師と連携しながら適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月一回、看護師による健康チェックを行っています。その他、緊急時においても連絡を取れる体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際に情報提供書を提示。適度に病院側とのカンファレンスを行うことにより情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そのような場合においてご家族との話し合いの場を設け事業所における出来ることの説明をさせていただいている	契約時に急変時・重度化における対応及び施設内での看取りについての指針で利用者や家族に説明しています。医療の協力体制が整っていないため事業所で出来ることを説明しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応が出来る様、緊急時の情報提供書作成し定期的に更新をしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に参加し、その情報を職員で共有している	年2回、職員が火災初期対応実務研修に参加し消火器の使用、119番通報、スモークマシーンを使用した避難訓練の研修を実施しています。防災用具の見直しなど行っています。	避難訓練のシュミレーションや実際の火災避難訓練を実施し、地域住民の参加を呼びかけ協力を得ることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、1人ひとりの行動を把握しながら対応している	利用者一人ひとりの人格を尊重し声のトーンに気を付けながら接しています。利用者に関しての関係書類は適切に管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で希望や要望がくみ取れるように対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムに合わせ、その日を過ごして頂くよう対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服ではなく季節に応じた衣類を着て頂いている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在調理作業は行っては行ないが片づけ等を行って頂いている。好みも把握し嫌いなものは出来るだけ排除し提供している	職員は利用者の好みを聞き、メニューを考え調理をし、下拵えや後片付けなど一緒に行っています。敬老会には趣向を変えてお弁当にしたり、誕生日にはケーキ、季節を感じられるおはぎなど楽しみな食事となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に水分量を把握。水分量が少ない利用者様には声掛けの工夫や水分を変更したりし対応している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはご本人の状態を含め実施していないが起床後、就寝前には声掛けを行い実施して頂いている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関してはその都度介護記録に記載している。間隔が空いている利用者様には声掛けを行い誘導を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、耳元で誘い時間誘導したり、本人のサインを見逃さずトイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録により排便間隔を把握し、乳製品等を提供している。場合によっては医療機関への相談も行っている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在、午後からの入浴となっている。入浴の際には1人ひとりのこだわりを把握し対応している。拒否のある利用者様には日や職員を変え支援している	利用者の体調、状態に合わせ清拭やシャワー浴なども取り入れて対応し清潔保持に努めています。入浴時には談笑するなど体も心もリラックス出来るよう行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室ではなじみのあるものを置いたり飾ったりして安心して休まれるような環境づくりを行っている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにて処方箋を管理し確認できるようにしており変更があった場合には連絡ノートに記載し把握している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりのIADLを把握しながら食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、片づけを行って頂いている			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍により受診以外の外出は行えずにいる。	天気の良い日には事業所の花壇を愛で外気欲をしたり、屋外でのスイカわりなど夏の雰囲気を楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭については施設管理となっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合等対応を行っており、居室等でゆっくり会話を出来る環境を整えている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるようにフロアの張り紙の作成や模様替えを行っている	共用空間は季節や行事に合わせて飾り付けがなされ、利用者が一緒にソファで寛ぎビデオを見たりと穏やかな時間が流れています。温湿度に配慮し過ごしやすい環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士の空間を考慮し工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのあるものを持ってきていただき、わかりやすいように張り紙をする等、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。また、行事を行った際にはその際の写真を飾るようになっている	居室はクローゼットが備え付けられ馴染みの物が持ち込まれています。家族写真や加湿器が置かれ今いる場所が家庭であり、快適の過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるように表札を付けている。手すりも設置している		